

ダイナミクスに出会ってから

※潮見台診療所 船越徳宗

私が高知市で開業したのは一九九九年五月でした。最初からずっとダイナミクスを使っていて、二〇一〇年の今年で二二年目に入ります。単なるソフトではなく、私の身体の重要な一部のように、これなくしては生きてゆけません。どこへ行くにもダイナを入れたノートパソコンと一緒にです。

私は一九九五年、日本西端のこしきじま甑島の診療所に赴きました。上甑、下甑の主な二つの島に四つの公立診療所があり、その一つに勤務したのです。それまで、私はワープロをいじる程度で、パソコンは持っていませんでした。当時は、マウスでアイコンをクリックすれば操作できるといっているので、

※昭和二三年生まれ。昭和四六年東京大学法学部卒。横浜銀行勤務を経て昭和五五年京都大学医学部卒業。国民健康保険甑島中央診療所勤務（所長）を経て、平成十一年五月、高知市で潮見台診療所を開業。ダイナミクスメーリングリストを管理している。

マックが多忙な医師に人気がありました。まだノートパソコンは普及していませんでしたから、ディスプレイ一体型のマックを背負って出先の病院に行く医師の姿がみられたものです。私も一台マックを買って、メールのやり取りやサイト巡りを始めました。何しろ、島ですから、無性に情報に飢えていました。勿論、悠長なダイアルアップ接続で、電話代を気にして、時計とにらめっこでした。

甕島では、地域医学会が定期的に開催され、そこで高名な瀬戸上先生と伊地知先生に出会いました。瀬戸上先生は、甕島列島でも一番奥の下甕診療所で、わらじ履きで、孤軍奮闘なさっていました。肺癌や食道癌の〇〇をたった一人でこなす超人的医師なのに、心優しい気さくな方でした。

Dr. コトーのモデルですが、やや自虐的で沈鬱な雰囲気 Dr. コトーに比べ、率直快活な九州男児でいらつしゃいます。一方、伊地知先生は神経内科の権威で、日本西端から世界に向けて最新情報を発信しておられました。画像を使った遠隔医療のバイオニアでもあります。日本西端のフロンティアの島に、このような素晴らしい医師二人がおられたことは、奇跡です。

さて、私の勤務した診療所は、人口二千人程度の村ですから、それほどレセプト数があるわけはありません。しかし、毎月初めには、若い男性事務職員が、連日深夜までレセプト作成作業に追われていました。レセコンのメンテは、本土からの出張職員に頼らねばなりませんし、レセプト

作成は大変なものだという印象を持っていました。いずれ開業する意思はありましたが、レセコン選択は悩みの種でした。

さて、一九九八年秋の甌島地域医学界で、自治医大卒の若い先生が、勤務先の診療所で採用したプロダクのデモをなさいました。価格は八〇万円程とのことでしたから、レセコン価格数百万円の頃としては、格安と驚きました。早速、インターネットで、汎用PCで走るソフトの検索を始めました。そして見つけたのが、吉原先生のサイトでした。メールで問い合わせましたら、先生がすぐに实用版ダイナミクスCDを送ってくださったのには驚きました。吉原先生のご姿勢は、性善説で一貫しておられ、これがダイナミクス普及の原動力の一つであったことは間違いないと思います。僻地振興策の一環として診療所に配置されたデスクトップPCに、そのCDを入れてみました。画面が八〇〇×六〇〇ピクセルしかありませんでしたから、上下左右にスクロールしながらの試用でしたが、操作性の良さは、保険事務のずぶの素人の私にも実感できました。そこで、自前のウインドウズPCを購入することにしました。一九九九年の正月に通信販売のノートPCが届き、勤務の合間にダイナミクスの練習を始めました。ところが、このPCが能力不足で、しょっちゅうフリーズする代物で、これが後に続く悩みの種になりました。フリーズする度に再起動しなければならぬのに嫌気して、さっぱり私の技能が向上しなかったのです。離島では、PCの不調を相談できる人もお

らず、フリーズ問題は、ずっと解消されませんでした。

さて、一九九九年三月末に島の診療所を退職し、四月に大慌てで自分の診療所に機器を入れ、翌五月初めにオープンしました。保険事務は全くの素人でしたから、ダイナミクスに教えてもらいながらのスタートでした。ダイナミクスと青本でわからないときは、直接吉原先生にメールを送りました。ところが、当時、吉原先生か、私のメーラーのいずれかの調子が悪く、せつかく送っていた。だいた先生からのご回答が私に届かず、何度も同じ質問を繰り返すことになりました。これが全く馬鹿げた質問で、患者さんを診察していたとき、保険証データの入力ミスに気づき、修正しようとして、慌てていたためできず、そのうち患者さんは怒り出して、動揺したときに送った質問でした。

これには、さしもの我慢強い吉原先生も切れてしまわれました。五月下旬に電話をくださったって、うちでは何ともないのに、どうしてあなたのところだけ動かないんですか。修正ボタンか登録ボタンを押さなかったんじゃないんですか。もうすぐレセプトを出す時期なのに、そんなんでどうするんですか。”とおっしゃいました。恐縮して、“いえ、今は順調です。毎日のレセプトチェックもしています。”と申し上げたら、すぐにご機嫌を直してくださいました。

甌島に行ったことがきっかけで、日本の医療史に確実に名を残される偉人である、吉原先生と瀬戸上先生に出会えたことは、私の人生の最大の喜びです。

ダイナミクスのおかげで、私は開業以来、診察と事務を一人でこなしています。もちろん、LANは組んでいます。もっぱら画面を見るのは、私と患者さんだけです。事務を自分でやることの最大のメリットは、患者さんの待ち時間が極限まで少なくなり、薬品在庫などにおいて、無駄がほとんどなくなることです。

一九九九年秋、開業医の仕事に慣れ、気分にしゆとりが出てきましたので、ダイナミクスの発展のために、微力ながらお役に立ちたいと思うようになりました。何しろ、私は吉原先生に馬鹿馬鹿しい質問を繰り返し、先生が、“初心者にダイナミクスを普及させるのは大変だから、もうやめよう”との決断をなさる一歩手前まで追い込んだ張本人です。もし、吉原先生がダイナミクスの配布を中止しておられたら、私は日本の医療IT化の歩みを一〇年は遅らせたA級戦犯になるところでした。

私は、ダイナミクスを草の根で広めるには、Bが絶対に必要と信じていました。私がユーザーになった頃は、ほとんど仲間がいませんでしたから、闇夜に提灯なしという悲壮な心境で、吉原先生におすがりするしかないような状況でした。ともかく、ユーザーで助け合って、吉原先生のご負担を軽くして差し上げたいと思いました。そこで、インフォシークの間を借りて、C ダイナミクスを立ち上げました。Eの発足当初は、小人数のせいもあって牧歌的な雰囲気、わいわいがやがや、

プライベートな話題も気軽に投稿されていました。その後は、堅牢な「H」のサーバーを借りた *superdyn* となり、数千名の大所帯に発展しましたから、さすがに冗談めいた投稿は少なくなりました。吉原先生は、一貫して、会員の様々な要望に可能な限り迅速に応じてくださいました。私が介護保険主治医意見書を提案しましたら、即座に作ってくださいったときは本当に嬉しかったです。

ダイナミクスは、操作性の良さ、高機能、コスト、保険改定の際の対応の迅速さ、開発者の真摯なご人格と天才的資質、良心的なバックアップ等、どれをとっても、他のソフトから隔絶した優越性を持っています。いずれ、新規開業診療所の大半はダイナミクス使用という状況になるのは確実と信じています。

私の父は寺院住職でしたが、「寺に火災、地震など万一のことが起こったときには、本尊様と過去帖を、何としても持ち出せ。この二つがあれば、寺はいつか必ず再建される。」と言うのが口癖でした。今の私は、「診療所万一の際には、ダイナミクスのデータを何としても守りぬけ。それさえあれば、どんな危難も乗り越えられる。」をモットーにしています。